

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

| | | | |
|-------|--|-------------------------------|------------------------------|
| 課題番号 | 18H05292 | 研究期間 | 平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度 |
| 研究課題名 | 世界一の確度をもつ過去200年間の沈着エアロゾルのデータベース創成と変遷解明 | 研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在) | 飯塚 芳徳 (北海道大学・低温科学研究所・准教授) |

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

| 評価 | | 評価基準 |
|--|----|---|
| | A+ | 想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A | 順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | A- | 概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
| | B | 研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| <p>(意見等)</p> <p>本研究は、グリーンランド氷床でアイスコアを掘削することでエアロゾルのデータベースを構築し、大気化学プロセスの理解を高度化することを目的としている。</p> <p>研究の最終目標に向かって、グリーンランドでの観測の準備と観測モデルの研究が順調に進展していると判断する。掘削深度を予定の250mから300mにしたことで産業革命以前からのリファレンス情報を含めた大気エアロゾルの変遷の把握が期待でき、観測結果と数値モデルの結果を整合する成果は世界に誇れる結果となることが期待できる。また、データの公開に積極的である点も評価できる。</p> | | |